

# 港北区高潮ハザードマップ

## 高潮浸水想定区域(想定最大規模※)

この高潮ハザードマップは、高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

1 : 17,500

500m 0m 500m 1500m

### 高潮浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

この高潮浸水想定区域の範囲や深さは、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合をシミュレーションにより予測したものです。

【想定する台風】  
 ・中心気圧：室戸台風(910hPa)・暴風半径：伊勢湾台風(75km)・移動速度：伊勢湾台風(73km/h)

なお、この高潮浸水想定区域は、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※神奈川県ホームページ  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/jy2/takashio/tokyo-bay.html>



出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	神奈川県 高潮浸水想定区域(平成31年4月指定)
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域(令和4年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域(令和4年2月現在)



### 港北区役所が開設する避難場所について

- ◆開設する避難場所は、横浜市域で予想される降雨量などを踏まえて決定するため、避難の際は、必ず、市区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所を確認してください。
- ◆避難場所は、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に居住する方に避難していただくため、開設します。洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域以外で堅牢な建物に居住する方は、ご自宅に留まり、最新の情報を確認してください。
- ◆【警戒レベル5】緊急安全確保の対象区域となった場合や自宅周辺が浸水し始めている場合は、避難場所へ移動せず、自宅の上階や近隣の高いところに直ちに避難してください。

### 避難場所(洪水・高潮)候補地一覧

●2日間の降雨量が792mm程度(想定最大規模)と予想される場合、開設する避難場所は次のとおりです。

避難場所	
指定緊急避難場所	日吉台小学校、港北小学校、菊名小学校、新田小学校、高田中学校、篠原小学校、下田小学校、篠原西小学校、高田東小学校、新羽小学校、小机小学校、城郷小学校
自主避難場所	綱島地区センター、篠原地区センター、日吉地区センター

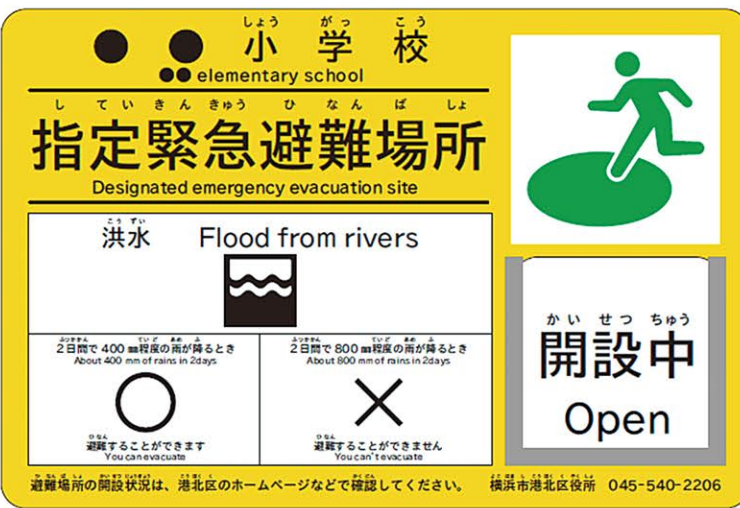
●2日間の降雨量が405mm程度(計画規模)と予想される場合は、上記の避難場所に加え、次の避難場所を開設する可能性があります。

避難場所	
指定緊急避難場所	城郷小学校、矢上小学校、駒林小学校、師岡小学校、大豆戸小学校
自主避難場所	港北公会堂、菊名地区センター

▼2日間で400mm以上の降雨がある場合、港北区内では広範囲での浸水が予想されており、避難場所の数が圧倒的に不足することが想定されます。2日間で400mm以上の降雨が予想される場合には、安全な場所にある親戚、知人の家、宿泊施設等への避難を検討してください。

### 港北区内の指定緊急避難場所には、このような看板が設置されています。

開設される避難場所は、予想される降雨量によって異なりますので、必ず複数の避難場所を日頃から確認しておきましょう。



### 凡例(Explanatory Notes)

○浸水深のめやす

10.0~20.0m未満	※港北区内では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	※港北区内では、該当エリアはございません。
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水の深さ ※港北区内では、該当エリアはございません。
0.5~3.0m未満	1階天井まで浸水の深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸かる深さ

※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水幅幅差が異なります。

○避難する際に注意する箇所

アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行にできなくなった場合は、冠水した場所へ進入しないこと。(進入すると危険なため、冠水の通行は控えてください。)
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
鶴見川多目的治水地(国土交通省管理)	鶴見川の洪水流を一時的に取り込み留めることで氾濫を防ぎ、周辺地域や下流域を洪水の危険から守る治水施設(洪水時は川の水が流入するので注意が必要です。)
都県界	高速道路・有料道路
市区界	主要道路
町丁目界	避難場所
JR線・駅	雨量観測所
私鉄線・駅	水位観測所
市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

## 3 高潮の発生について

### 高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はもっとも上昇して、大きな災害が発生しやすくなります。

#### ① 気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇するとされています。例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風を中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

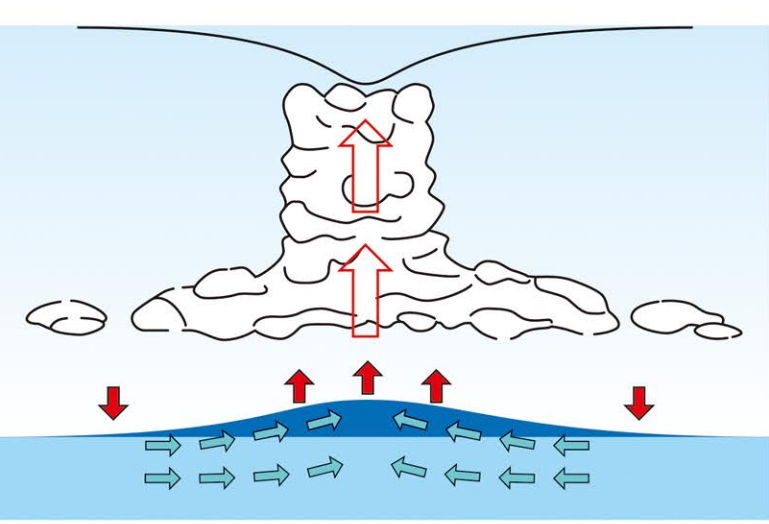


図-1 吸い上げ効果

国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成  
[https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet\\_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm](https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

#### ② 風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面は4倍になります。また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。

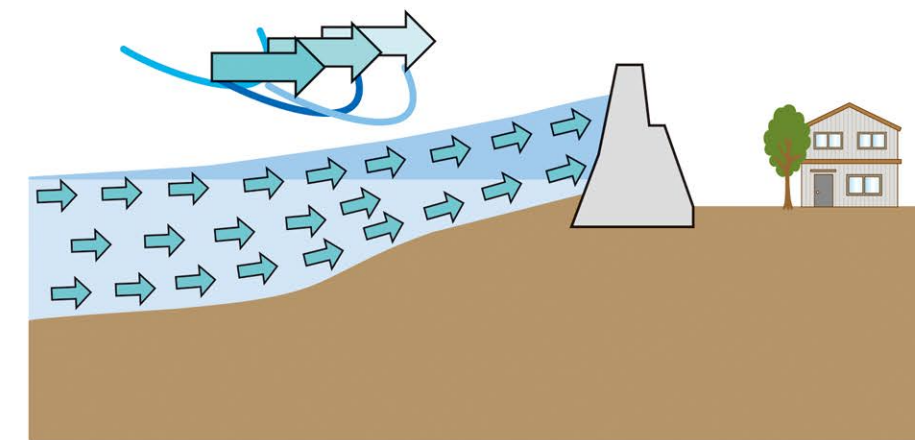


図-2 吹き寄せ効果

国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成  
[https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet\\_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm](https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kaigan/kaigandukuri/takashio/1mecha/01-2.htm)

### 想定条件

中心気圧 910hPa、暴風半径 75km、移動速度 73km/hの台風

### 避難情報がでたら

～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	発令表令	とるべき行動	避難情報(横浜市)
警戒レベル5	緊急安全確保	【命の危険 直ちに安全確保！】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	避難指示	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 (1)情報の入手方法と日頃からの備え(避難の考え方)もお読みください。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。天候や水位の急変時には、高齢者等避難を必ず避難指示を発令することがあります。	避難指示
警戒レベル3	高齢者等避難	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間がかかる人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと一緒に、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	-	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-
警戒レベル1	-	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報の最新情報に注意する。	-